

平成31年（2019年）1月8日

れきみん

資料館だより

No. III-16

相生市立歴史民俗資料館

あけましておめでとうございます

昨年は、多くの皆様にご来館と諸事業へのご参加をたまり、ありがとうございました。本年もよろしくお願いたします。

現在、2019年度事業計画の策定と以下のような資料の整理・整備を進めています。

- ◇ 「ぶん福茶釜」の保存処理（外注、4月ごろ完了予定）
- ◇ 寄贈資料の登録・整理、データ化
- ◇ 不明確な古墳等の踏査
- ◇ 常設展の一部コーナー（原始・古代等）の展示替え



〈資料紹介11〉「ぶん福茶釜」の謎（その1）

当資料館で保管している資料の中に「ぶん福茶釜」があります。本資料は三濃山求福教寺ぐぶくきょうじ（観音寺）の寺宝として伝えられ、信徒・総代らによって大切に保管されてきました。はたのかわかつ秦河勝が愛用したという伝承があり、湯が沸騰するとチリンチリンと秘音を発するため、県内外の多くの人々が観覧に訪れましたが、三濃山廃村にあたり、1985年（昭和60）から当館で保管・展示することになりました。

しかし、この茶釜について、文政5年（1808年）に三野山別當べつとう（統括役）によって書かれた『三野山求福教寺縁起』に記載はありません。『相生市史』でも取り上げられることはなく、確かな製作時期や場所はもとより、寺宝として扱われるようになったいきさつや名称の由来など、多くの謎が残されています。

本資料は茶の湯でよく使われるはがま羽釜はおちがまや羽落釜つぎくちではなく、三足の釜に注口を設け肩部のかんつき鑲付（耳）につる鉷（把手）を付けた手取釜です。鑄鉄製で、体部は短頸壺のような形状をしています。側面に注口が、肩部前後に鉷の先端を通す2つの鑲付が付いています。底部近くにやや外に開く3つの低脚が付き、底部中央には小さな突起が見られます。最大径約23.3cm、口径約13.8cm、底径約15.0cm、厚さ0.3～0.4cm、脚を含めた高さは約15.5cmを測ります。蓋は中央に針金を通したちゆう鈕を配し、内側は口縁に合わさるように輪状の突起が巡っています。径約15.0cm、突起から鈕までの高さは約1.7cmを測ります。太さ0.5～0.7cmの逆U字形の鉷は先端を細くかぎがた鉤形に曲げて鑲付に通しています。鉷を含めた全体の高さは約38.5cmになります。

注口の先端が欠損し、内側でわずかにあかさび赤錆が認められるものの、全体的に保存状態は良

好で黒色を呈しています。

本資料に関わる重要な史料の一つに茶釜観覧の芳名帳である『名釜観覧人名記』（以下『人名記』と略す）があります。大正4年（1915年）2月付けで、矢野村長と観音寺総代3人の名でもって茶釜の観覧についての取り決めや保管方法について5項が記されています。3項目に「分福茶釜」の名称が確認できます。

続いて、大正4年（1915年）2月20日から昭和15年（1940年）1月21日に至る観覧者の芳名等（観覧日、住所・氏名、拝観料等）が記されています。『人名記』を詳しく見ると、地元住民をはじめ学校・警察・宗教・造船所・登山・文芸など様々な関係者が三濃山訪れ茶釜を観覧していたことがわかります。また観覧者の住所も多様で、西播磨地域を中心に県外も散見されます。

注目されるのは、最初（大正4年2月20日）に福田^{びせん}眉仙（1875～1963 矢野町瓜生生まれの著名な日本画家）の名が見えることです。また、大正8年（1919年）には、「千古秘音」の書に

「興隆」の署名があることから、利井^{かがいおきたか}興隆（1883～1946 明治後期～昭和前期に活躍した本願寺布教師）が訪れていたこともわかります。なお、福田と利井については次号で再度ふれる予定です。

『人名記』は、茶釜の由来などが書かれていたと思われる冒頭の数頁が落^{らくちよう}丁し失なわれていますが、後年「一、紛失に付概畧を書残ス 文福茶釜は保本家所有の釜で有りましたが、神戸へ轉居する折龍野の小道具屋へ賣却す 後三濃山部落が二百十円にて買戻す 求福寺の宝物として保存す」と記した別紙が貼り付けられています。しかし、売却した時期や買い戻した時期についての記述はありません。

（次号につづく）

〈参考文献・史料〉

井上満郎 1984「秦河勝」「大避神社の信仰」「秦内麻呂の周辺」『相生市史』第1巻（相生市・相生市教育委員会）

小林楓村 1963『相生史話』（西播史談会）

地主 喬 1987「忘れゆく村々」『相生市史』第4巻（相生市・相生市教育委員会）

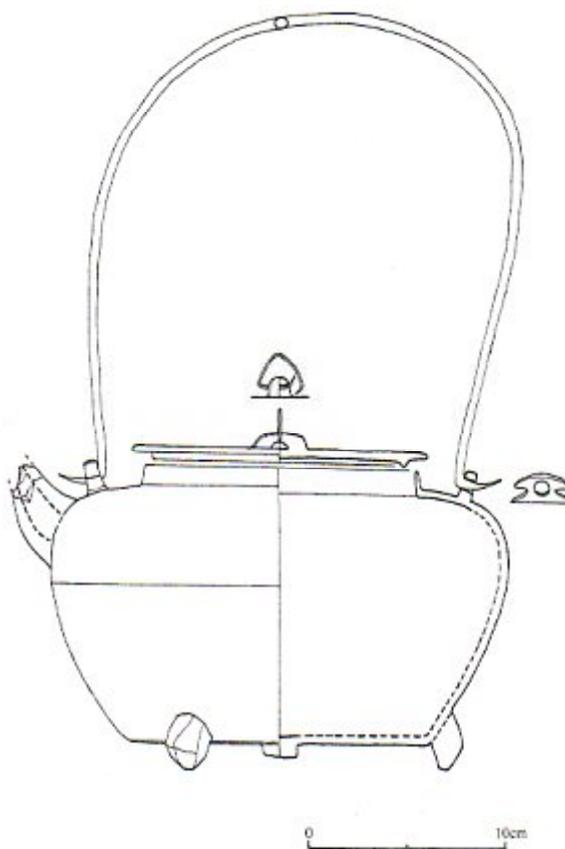
平井 漢 1987「伝説」『相生市史』第4巻（相生市・相生市教育委員会）

著者不明 1919～1925カ『ぶん福茶釜の由来』（発行所不明、印刷は上郡町吉間三美堂）

『三野山求福教寺縁起』1808年（文化5）（現在当館蔵）

『名釜観覧人名記』1915年（大正4）起カ（現在当館蔵）

（中濱久喜）



「ぶん福茶釜」実測図